

原子力規制委員会記者会見録

- 日時：令和3年11月24日（水）
- 場所：原子力規制委員会庁舎 13階B・C・D会議室
- 対応：更田委員長

<質疑応答>

○司会 それでは、定刻になりましたので、ただいまから11月24日の原子力規制委員会定例会見を始めます。

皆様からの質問をお受けします。いつものとおり、所属とお名前をおっしゃってから質問のほうをお願いいたします。質問のある方は手を挙げてください。

では、カワムラさんお願いします。

○記者 朝日新聞のカワムラです。よろしくお願いします。

今日の議題とは関係ないのですが、先ほど公表された委員長が今度12月2日ですかね、福島第一原発を現地視察されると。予定ではALPS処理水関係だったり、仮設集積の問題がありますけれども、瓦礫等廃棄物保管場所などの視察も予定されているということですが、特に今回よく見ておきたいとか、ポイントになるような場所などあれば教えてください。

○更田委員長 まずですね、本来であればALPS処理水の処分に係る変更申請がなされた後に行こうと思っていたのですが、様々な理由によって申請が遅れているということで申請を待っていると、例えば国会が始まると、私は平日東京を離れることがほとんど困難、事実上不可能になるので、そういった意味でこの視察までの間に変更申請がなされていけばなと思ったのですが、どうもそれは間に合いそうにないということもありますので、まだ申請前ではあるのですが、やはり処理水の処分に係るものについて、計画の概略はもう東京電力から既に公表されていますので、その設置位置であるとかを改めて現地を見てみたい、さらに新型コロナウイルス感染症対策の影響もあって、しばらく福島第一原子力発電所に行くことができないでいますので、そういった意味で一般的な廃炉の進捗において、HICについては当初審査等に関わったのでその状況等と言いますか、施設の状態については承知をしているつもりですが、やはり何事も百聞は一見にしかずというところがありますので、ちょっと期間が開いてしまったので、もう申請を待つことなく視察をしようという判断になった次第です。

○司会 それではヨシノさん、お願いします。

○記者 テレビ朝日、ヨシノです。

今日トピックスでも取り上げられていましたけれども、福島第一原発で2人が内部被ばくされたという案件なんですけれども、結果としては軽微だったということであろうと

ということなのですが、今、現状について委員長はどのように御覧になっているでしょうか。

○更田委員長 鼻スミアから汚染が出る、鼻スミアって綿棒みたいなもので鼻の入り口をこう擦ってということですけど、作業環境からすれば鼻スミアで汚染が出る、出やすい状況の作業をしていることは、これは間違いないですね。あらかじめ人工的に作った条件の下で作業しているわけではありませんので、事故収束のための廃炉作業なので、完全に防ぐということはなかなか難しいのだらうと思います。ただ、よりこういったことが起きないようにするためには、装備をきちんとした装備で作業をしていただくということが重要だらうと思います。

それから、もう一つはやはり鼻スミアで汚染が出たときには、その後の観察といいですか、バイオアッセイも含めて内部被ばくの状態把握というのが重要なのだらうというふうに思います。

○記者 本当にあの案件も私もちょうと聞いていた、後で会見を聞き直したのですけれども、その作業服と普通の防じんマスク、それに対して全面マスクと防護服と、これはどっちを選択するのだというのは、なかなかこれは難しいような感じもするのですが、いかがでしょうか。

○更田委員長 難しいと思います。それは内部被ばくという観点だけから見れば、常に重装備で作業に臨めばいいじゃないかという話になりますけれども、実際に作業の現場で言えばおのずと作業員自身の判断であるとか、定められたルールに基づいて装備のグレードを決めるということになるのだらうと思います。特に福島第一原子力発電所の場合は、先ほど申し上げたように、ラボのような条件ではありませんから、どこにその汚染の、予期せぬ汚染のようなことがあるかということも完全に抑え切ることができない、そういった意味で装備のグレードを決める上では、一定程度の保守的なアプローチを採ってほしいとは思いますが、ヨシノさんがおっしゃるように、装備を決めるというのはなかなか難しいのだらうと思います。

○司会 ほかに御質問ございますでしょうか。

じゃあアマザワさん、お願いします。

○記者 読売新聞のアマザワです。

福島第一原発の現地視察の関係で、先ほどその処理水の放出設備の設置場所などを見られたいというお話だったので、実際この現地で見ること、何と言いましょ、どういうところをその後の判断とかの材料として得られそうみたいなイメージしているところありますでしょうか。

○更田委員長 正直に申し上げますと、そんなに技術的にここを確認しなければならないというようなものではありません。タンクの中で、タンクの中に処理がきちんと行われた状態に水がなっているかということを確認されたものを希釈して放出する設備ですの

で、もちろん行ってみると新たな気づきというものはあるかもしれませんが、今の時点で考えていると、技術的な困難であるとかあるいは選択肢と呼べるような二者択一あるいは三者から選ばなきゃならないというような技術上の分岐点があるとは思っていませんので、特別ここをというものを今持っているわけではありません。

○記者 分かりました。

あと今回本当は申請後に行ければと考えていたところ、申請前になってということで、申請後、本当はその書類等を見て行ったら確認できたんじゃないかなみたいなところって想像される場所ありますか。

○更田委員長 それほど特別その違いがあるとは思いませんけれど。

ただ、当然現地で東京電力の説明を受けるわけですが、それは変更申請という手続を経た後と前とであるとやっぱり説明されるほうも確定的なものに基づいて説明されるわけではないので、東京電力との間のやり取りには多少の影響はあるかなというふうには思います。

○記者 分かりました。ありがとうございます。

○司会 ほかに御質問ございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

ではヨシダさん、お願いします。

○記者 毎日新聞のヨシダです。

先週の臨時会議の柏崎刈羽で、新たな生体認証の再登録のやり方とかいろいろ説明があったと思うのですが、その辺についての委員長の所感と、今後の調査の見通しみたいなものも伺えればと思います。

○更田委員長 いや、まだKKの入退域管理等々やセキュリティのハードウェアに係るシステム等については議論はまだまだこれからだと思います。さらに見通しが申し上げられるような段階になっているとも思っていないです。まだ具体的に核物質防護規定の変更申請がなされるまでの間に、まだ幾つもの議論があるだろうと思いますし、それからこれまで足らなかったところというのはどういう補い方をするのかと、ハードウェアはその一つに過ぎませんが、ただ、ハードウェアでどこまで防護のレベルを上げていくのかということについて、まだ見解を言えるような議論の段階に至っているというわけではありません。

○司会 ほかに御質問ございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

じゃあ、最後、ヨシノさんでよろしいですか。

では、ヨシノさん、2回目お願いします。

○記者 2回目申し訳ないです。テレビ朝日、ヨシノです。

まだ正式に聞いたことなかったのですが、その福島第一原発で、希釈処理水の中でヒラメを飼うという話が出ておりました、本当にそれを実行に移すということなのですが、このことに対する意味が私にはいま一つよく分からないのですが、委員長はそれを聞かれてどのように思われましたか。

○更田委員長 少なくとも規制の要求に応えるものではありませんので、ただ一方で、政府方針の中でも触れられているように、できるだけ多くの方の了解なり同意なりを得るということにベストを尽くすと。そうするとこれは受け止めの問題ですので、技術的・科学的にどこまで価値がというものではなくて、むしろより御理解をいただくとか、多くの方の不安を和らげるという意味での操作だと思いますので、規制当局としてこれに対してという、どうこうというものではないですね。

○司会 それでは、本日の会見は以上としたいと思います。ありがとうございました。

—了—